

ミヤマクロユリの超稀少品種 白山のキバナクロユリ (石川県白山市 白山)

今から40年程も前の1980年頃の話である。地元で歯医者さんをされていた方が、洋蘭の研究にのめり込み、歯医者を息子に譲り、広大な田園地帯の真中で、巨大な温室を作り、洋蘭の新種開発に情熱を燃やしていた。何度も伺い、洋蘭の新種について学ばせて頂いた。ある時、白山の山中に、真黄色のミヤマクロユリを発見したという話をされた。室堂に向かう脇道から少し外れた所で発見。毎年登って、盗掘から守ろうと、花芽を切っていたという。ところがある年、都合で登れなかつた。翌年登ると、残念ながら、採られたようだという。

図鑑でその存在の記述を見た事があったが、写真も見た事がなかった。まさか何度も撮影に登っていた白山にあったとは驚きであった。ミヤマクロユリが咲く頃、全ての登山道沿いは調べ尽くしていた。もっとも、登山道沿いにあっても、盗掘にあつてるのは間違いない。あるとすれば、登山道から外れた場所であろう。

ゆっくり歩けば見えてくるかも知れないと考え、翌年の夏、キバナクロユリ探索を開始した。

探索2日目、山頂からかなり外れた尾根沿いを探しながら歩いた。しかし、見つからず、夕方、気落ちして室堂に向かった。途中、一服しようと岩に腰掛けていると、何とそのすぐ横のハイマツの陰に二輪のキバナクロユリを発見したのである。何という幸運であろうか。

花は見事に真黄色である。ある方の話では、キバナクロユリと称するものの中には、黒色と白黄色が混ざる花もあるという。しかし、これは二輪とも純粋に黄色であった。

撮影はフィルムカメラで、レンズは50ミリのマクロ。フィルムはASA50のリバーサルフィルム。ストロボ補助露光で撮影された。このフィルムをスキャナでデジタル化。当時としてはかなり正確に撮影されていた。

個体数が極端に少ないため、絶滅の日は近い。

